



軽防協ニュース速報

2022年第1四半期(1月-3月)の伝染病発生状況

2022年6月配信

(International Collating Centreからの情報)

この記事は、2022年第1四半期(1月-3月)の各国の伝染病発生状況の要約したものである。また、ICC暫定(リアルタイム)のレポートでは報告されていなかった疾病発生状況の追加情報が寄せられていることにも留意されたい。この追加情報は、本レポートの表と本文の該当する箇所に*印または#印を付して示されている。ICC暫定(リアルタイム)のレポートは<http://jdata.co.za/iccviewer/>のページ内にある。

このレポートに示されているデータには、各国の研究所での検査サンプルや、報告方法に多少のバイアスがあるかもしれないため注意して解釈していただきたい。そのため、これらのデータが必ずしも世界各地における馬の集団内での伝染病発生率を的確に反映しているわけではないことをご了承願いたい。例えば、ある伝染病について発生報告がないからといって、必ずしもその伝染病がその国の中で存在していないということではない。以下の各表は国によって報告された病気の発生件数をまとめたものである。1件の発生で複数症例を含むものがある。

繁殖疾患

発生国	CEM	EHV-1	EHV-1/-4	EHV-3	EHV-4	S.zoo
ベルギー	-	1	-	-	-	1
フランス	-	2	-	1	-	-
ドイツ	11	3	1	-	-	-
日本	-	*10	-	-	-	-
オランダ	-	2	-	-	-	-
イギリス	1	3	-	-	1	-

*ICC暫定レポートを通じては報告されなかったが、四半期末に報告があった追加情報

#四半期末後に報告があったもの

馬伝染性子宮炎(CEM)による流産

ドイツ

バイエルン州、ニーダーザクセン州、ノルトライン・ヴェストファーレン州、ラインラント・プファルツ州、シュレスウィヒ・ホルスタイン州において、計11件(3件はそれぞれ4頭、3頭、2頭の発症、8件は単独症例)の発生があり、うち6件については、アイ

スランドホースにも発症を認めた。陽性診断は生殖器スワブを用いた PCR 検査によって行われた。

イギリス

グロスターシャー州の非繁殖施設において、11 歳のハノーバー種牡馬で感染を認めた。同馬は約 18 か月前に競技馬としてヨーロッパから輸入されており、臨床症状は認めていなかったが、繁殖前に行う定期的な PCR 検査および陰茎スワブの培養によって陽性が確認された。その後の治療と検査により陰性となった。

馬ヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

ベルギー

アントウェルペン州において、1 頭の発症を認めた。同馬は 6 か月ごとにワクチン接種を受けていたが、妊娠 9 か月で流産した。陽性診断は胎子組織を用いた PCR 検査にて行われた。

フランス

オルヌ県、ウール県で 2 件の単独発症を認めた。いずれの感染馬もワクチン接種済みであり、9 歳のセルフランセ種牝馬および 6 歳のサラブレッド種牝馬における発症であった。胎子組織を用いた PCR 検査によって陽性を確認した。

日本

*サラブレッドにおいて 17 頭の発症を伴う 10 件の発生があり、うち 1 頭はワクチン未接種であった。多くは流産であったが、3 頭は生後直死であった。PCR 検査や LAMP 法によって陽性を確認した。

ドイツ

バイエルン州、ニーダーザクセン州、ヘッセン州において、3 件の単独発症を認めた。胎子の肝臓組織、胎盤、生殖器スワブ、膣スワブおよび胎子の肺吸引物を用いた PCR 検査によって陽性を確認した。

オランダ

ヘルデルラント州およびオーファーアイセル州において、2 件の単独症例を認めた。いずれにおいても、疾病が発生した施設内では複数頭の接触があった。陽性診断は膣スワブおよび胎子の肺吸引物を用いた PCR 検査によって行われた。

イギリス

ランカシャー州、ノーサンプトンシャー州、ノースヨークシャー州において、3 件の単独発症を認めた。3 頭のうち 2 頭はワクチン未接種、他 1 頭はワクチン接種済みの 10 歳

サラブレッドでの発症であった。ランカシャー州での発生の翌日には、さらに1頭のワクチン未接種の非サラブレッド種に流産を認め、EHV-1陽性であることが確認された。陽性診断は胎盤や胎子組織を用いたPCR検査にて行われた。

馬ヘルペスウイルス1型および4型 (EHV-1/-4) による流産

ドイツ

ヘッセン州の11歳のワクチン接種済みサラブレッドにおいて、分娩予定月での流産を認めた。同じ施設内には年齢・性別・品種が混在する30頭の群が繋養されていたが、同馬はそれらとは隔離されていた。陽性診断は胎子組織を用いたPCR検査によって行われた。

馬ヘルペスウイルス3型 (EHV-3) による瘡疹

フランス

ピレネーアトランティック県において、10歳のサラブレッド牡馬に発症を認めた。生殖器スワブを用いたPCR検査にて陽性を確認した。

馬ヘルペスウイルス4型 (EHV-4) による流産

イギリス

サセックス州の非サラブレッド種牝馬1頭に発症を認めた。同馬は4頭の妊娠馬の群で管理されており(3頭との接触あり)、スタッド内の他の場所にも5頭のスポーツホース種の妊娠馬がいた。陽性診断は胎盤組織を用いたPCR検査にて行われた。

S.zooepidemicus による流産

ベルギー

西フランダース州において、1頭の発症を認めた。妊娠9か月での流産であった。陽性診断は胎子肺および肝臓組織を用いたPCR検査にて行われた。

呼吸器疾患

発生国	EHV-1	EHV-2/-5	EHV-4	EI	腺疫	腺疫/EI
ベルギー	-	1	3	-	5	-
フランス	3	-	8	-	15	-
イタリア	1	-	-	-	-	-
オランダ	2	-	#4	-	#17	1
スイス	-	-	-	-	6	-
イギリス	-	-	-	1	-	-
アメリカ	3	-	2	11	39	-

*ICC 暫定レポートを通じては報告されなかったが、四半期末に報告があった追加情報
#四半期末後に報告があったもの

馬ヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による呼吸器感染症

フランス

アルプマリタイム県およびイブリーヌ県の非サラブレッド種において、計 3 件の単独発症を認めた。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

イタリア

ロンバルディア州ブレシア県において 1 頭の感染を認めた。

オランダ

オーファーアイセル州およびフリースラント州において 2 件の単独発症を認めた。臨床症状は発熱、発咳、鼻汁、脚部浮腫などで、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

アメリカ

ワシントン州およびウィスコンシン州において計 3 件の発生を認め、うち 1 例については、EHV-4 および馬インフルエンザとの混合感染であった。感染馬には発熱などの臨床症状を認め、うち 1 頭は直近で同施設内に持ち込まれた馬、もう 1 頭はショーから帰厩した馬だった。

馬ヘルペスウイルス 2 型および 5 型 (EHV-2,-5) による呼吸器感染

ベルギー

アントウェルペン州において、1 頭の EHV-2 および EHV-5 の混合感染を認めた。臨床症状は発熱、リンパ節腫脹、鼻汁などで、鼻腔スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

馬ヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器感染症

ベルギー

リンブルフ州およびエノー州において、計 3 件の単独発症を認めた。うち 1 頭については、EHV-2 および EHV-5 との混合感染であった。臨床症状は発咳、発熱、リンパ節腫大、鼻汁、呼吸困難などで、2 例は鼻腔スワブ、1 例は鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

フランス

カルヴァドス県、オーラン県、ロワールエシュール県、オルヌ県、ピュイドコム県およびソーヌエロワール県において、計 8 件の発生を認めた。1 件は 14 例、2 件は 2

例、他 5 件は単独での発症であった。発熱、発咳、鼻汁などの臨床症状を認め、症例のほとんどは鼻咽頭スワブ、1 例は気管洗浄液を用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

オランダ

ノールトブラバント州およびゾイトホラント州のワクチン未接種馬において、計 3 件の単独発症を認めた。発熱や鼻汁、発咳などの臨床症状を認め、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。[#] ノールトホラント州において、さらに 1 頭のワクチン未接種馬が発症し、鼻汁や呼吸困難などの症状を認めたことが追加報告された。

アメリカ

計 2 件の発生が報告された。うち 1 件は、ケンタッキー州のサラブレッド育成厩舎における 10~15 頭におよぶ発生であり、数頭の馬は EHV-2 との混合感染を認めた。もう 1 件については、ワシントン州における腺疫との混合感染を伴う単独発症であった。同馬は直近で市場から購入されて入厩したが、入厩時に鼻汁を認めていた。

馬インフルエンザ (EI)

イギリス

サリー州において、直近でドイツから輸入されたワクチン未接種非サラブレッド種 1 頭に感染を認めた。空輸およびフェリーを介した長時間の輸送後の発症であった。臨床症状は断続的な発咳、多量の進行性の膿性鼻汁、到着翌日の倦怠および発熱などで、鼻咽頭スワブの PCR 検査によって陽性を確認した。

アメリカ

計 11 件の発生を認め、うち 1 件はフロリダ州からケンタッキー州に帰厩したワクチン接種済みのサラブレッド数頭における発生であった。他、1 件については 4 例、9 件については単独症例をコロラド州、フロリダ州、メリーランド州、サウスカロライナ州、ワシントン州、ウィスコンシン州で認めた。臨床症状は発咳、鼻汁、倦怠、発熱などであった。

腺疫

ベルギー

アントウェルペン州、フラームス・ブラバント州、リンブルフ州および西フランダース州において計 5 件の発生を認めた。1 件は複数例の発症で、他 4 件は単独発症であった。複数例の発症を認めた 1 件については EHV-2 との混合感染を認め、他 1 件の発生においては EHV-2 および EHV-5 との混合感染を認めた。臨床症状は膿瘍形成、発咳、下顎リンパ節の腫大、発熱、鼻汁などで、鼻腔および鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

フランス

アイン県、アペイロン県、ブーシュデュローヌ県、カルヴァドス県、カンタル県、シャラントマリティム県、オートガロンヌ県、オートサボア県、イルエビレーヌ県、ジユラ県、マンシュ県、オルヌ県、サルトル県において計 15 件の発生を認め、1 件は 2 例、他 14 件は単独の発症であった。臨床症状は発咳、呼吸困難、発熱、鼻汁、リンパ節腫大などで、鼻腔または鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

オランダ

ヘルデルラント州、リンブルフ州、ノールトブラバント州、ノールトホラント州、オーファーアイセル州、ゾイトホラント州において、ワクチン未接種馬を中心に計 15 件の発生を認め、うち 1 件は 3 例、他 14 件は単独での発症であった。臨床症状は膿瘍形成、発咳、呼吸困難、下顎リンパ節の腫大、喉嚢蓄膿症、鼻汁、リンパ節膿瘍、食欲不振、発熱、呼吸器症状などで、多くは鼻咽頭スワブ、1 例は喉嚢洗浄液を用いた PCR 検査にて陽性を確認した。[#]リンブルフ州およびドレンテ州において、発熱、倦怠、鼻汁などの臨床症状を伴う単独発症が 2 件追加報告された。

スイス

計 6 件の発生を認め、1 件は複数例、5 件は単独の発症であった。臨床症状は下痢、発熱、呼吸器症状、リンパ節腫脹などで、PCR 検査にて陽性を確認した。

アメリカ

フロリダ州、アイダホ州、インディアナ州、メリーランド州、ミシガン州、オハイオ州、テネシー州、ワシントン州およびウィスコンシン州において、計 39 件の発生が報告された。

腺疫および馬インフルエンザ (EI)

オランダ

直近でゾイトホラント州に持ち込まれたシェットランドポニー 1 頭において、腺疫と馬インフルエンザの混合感染が認められた。臨床症状は発熱、呼吸困難、鼻汁、発咳などで、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

消化器疾患

発生国	馬コロナウイルス
ドイツ	1
スイス	1

* ICC 暫定レポートを通じては報告されなかったが、四半期末に報告があった追加情報

[#] 四半期末後に報告があったもの

馬コロナウイルス

ドイツ

スイスとの国境付近において、1頭の発症を認めた。臨床症状は発熱や倦怠などで、糞便検体を用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

スイス

ベルン州において、1頭の発症を認めた。臨床症状は発熱や疝痛などで、PCR 検査により陽性を確認した。

神経疾患

発生国	EEE	EHV-1	破傷風	狂犬病
カナダ	-	1	-	-
チェコ	-	1	-	-
フィンランド	-	1	-	-
ドイツ	-	1	-	-
イタリア	-	1	-	-
日本	-	-	*1	-
オランダ	-	2	-	-
スイス	-	1	-	-
アメリカ	1	21	-	1

*ICC 暫定レポートを通じては報告されなかったが、四半期末に報告があった追加情報

四半期末後に報告があったもの

東部馬脳炎 (EEE)

アメリカ

フロリダ州の5歳のペイントホース騙馬において、ウエストナイルウイルス(WNV)との混合感染を認めた。臨床症状は沈鬱、発熱、協調不全などであった。

馬ヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による神経疾患

カナダ

ケベック州において2頭の発症を認め、うちワクチン接種済みの1頭は重篤な症状を示し安楽死となった。同施設には直近で事前の検疫を行わずに新規入厩した馬がおり、このことが今回の疾病発生のリスク要因の一つとなったことが判明した。

チェコ

プラハ市で1頭の発症を認めた。同馬は横臥し、追加検査をすることなく安楽死となった。感染馬と同じ厩舎で飼養されていた馬は後肢の腫脹、軽度の倦怠、発熱、神経症状を示し、同じく安楽死となった。同馬については PCR にて陽性が確認された。他に同厩舎で

飼養されていた6頭の子馬、別の厩舎で飼養されていた無症状の2頭および2頭目の神経症状発症馬と共に輸送されてきた馬についても、EHV-1陽性であることが確認された。

フィンランド

シポー市において、19歳および16歳のウォームブラッド種牝馬に発症を認めた。臨床症状は発熱、神経症状などで、鼻咽頭スワブを用いたPCR検査によって陽性を確認した。

ドイツ

バーデン・ビュルテンベルク州において、1頭の発症を認めた。鼻咽頭スワブを用いたPCR検査および血清学的診断にて陽性を確認した。同馬は安楽死となった。

イタリア

トスカーナ州ルッカ県において1頭の感染を認めた。

オランダ

ヘルデルラント州およびゾイトホラント州において計2件の発生を認め、1件は8例、もう1件は2例の発症であった。臨床症状は発熱、脚部浮腫、麻痺などで、計3頭が安楽死となった。1件目は鼻咽頭スワブや血液検体(EDTA)、2件目は鼻咽頭スワブを用いたPCR検査にて陽性を確認した。

スイス

ボー州において1頭の発症を認めた。臨床症状は発熱、中枢神経症状などで、鼻腔スワブの迅速検査にて陽性を確認した。

アメリカ

カリフォルニア州において計21件の発生があった。40例の発症(EHM:4例、発熱のみ:36例)が1件、35例の発症(EHM:3例、発熱のみ:32例)が1件、27例の発症(EHM:3例、発熱のみ:24例)が1件、23例の発症(EHM:2例、発熱のみ:21例)が1件、3例の発症(EHM:1例、発熱と軽度の臨床症状:2例)が1件あった。さらにカリフォルニア州、コネチカット州、フロリダ州、インディアナ州、メリーランド州、ミネソタ州、ネブラスカ州、ペンシルベニア州、テキサス州、ワシントン州、ワイオミング州において、計16件の発生があり、うち2件は2例、他14件は単独発症であった。

※EHM=馬ヘルペスウイルス脊髄脳症

破傷風

日本

*滋賀県において、1頭の発症を認めた。滋賀県家畜保健衛生所にて陽性を確認した。

狂犬病

アメリカ

オクラホマ州において、ワクチン未接種の2歳のグレードホース(血統不明瞭種)牝馬に発症を認めた。後躯運動失調、横臥、中枢神経症状などの臨床症状を示し、安楽死となった。

その他の疾患

発生国	EIA	EVA	レプトスピラ	ピロプラズマ症
カナダ	2	-	-	-
フィンランド	-	-	-	1
フランス	-	-	1	-
イタリア	1	1	-	-
スイス	-	-	-	-
アメリカ	6	-	-	-

*ICC 暫定レポートを通じては報告されなかったが、四半期末に報告があった追加情報

四半期末後に報告があったもの

馬伝染性貧血 (EIA)

カナダ

アルバータ州の異なる施設において、計2件の単独発生を認めた。いずれの感染馬も輸出要件を十分に満たす検査を受けており、その際の臨床症状は認めなかった。

イタリア

ラツィオ州ローマ県において、ラバ1頭に感染を認めた。

アメリカ

アリゾナ州、カリフォルニア州、テキサス州において、計6件の発生があった。うち1件が3例、もう1件は2例、他4件は単独の発症を認めた。

馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

イタリア

シチリア州パレルモ県において1頭の感染を認めた。

レプトスピラ

フランス

オルヌ県において、3歳のクォーターホース牝馬において感染を認めた。眼房水を用いたPCR検査にて陽性を確認した。

馬ピロプラズマ症

フィンランド

ビフティ市において、12か月前に輸入されたルシターノ種騙馬に感染を認めた。PCR検査により陽性を確認した。